

議第23号議案

75歳以上の高齢者の医療費窓口負担を原則2割化しないよう求める
意見書

上記議案を別紙のとおり提出いたします。

令和元年12月12日提出

提出者	新座市議会議員	石島	陽子
賛成者	//	高邑	朋矢
	//	小野	大輔
	//	辻	実樹
	//	笠原	進

提 案 理 由

75歳以上の高齢者の医療費が2割負担とならないように求めるため、この案を提出する。

75歳以上の高齢者の医療費窓口負担を原則2割化しないよう求める
意見書

2019年から、後期高齢者医療（75歳以上）の医療費窓口負担を現行1割から2割にする論議が、経済財政諮問会議や財政制度等審議会、社会保障制度審議会が進められています。負担増計画に対して、老人クラブや医療関係団体から慎重な意見が相次いでいます。

高齢者は現役時代には日本経済の発展に寄与し、医療に安心してかけられる制度に支えられ、世界一の長寿国をつくりあげてきました。しかし、この間、公的年金が毎年減少し、10月からの消費税10%増税が、暮らしに追い打ちをかけています。75歳以上の医療費自己負担の2割導入は、高齢者の生活と健康に大きな影響を及ぼします。

財政制度等審議会は「世代間の公平性」を理由に挙げていますが、75歳以上の一人当たりの医療費は、74歳以下の4倍であり、自己負担が1割であっても窓口で払う負担額は、74歳以下の人と比べれば相当重い負担になっています。患者負担増による受診抑制が起こり、疾病の重症化を招きかねません。結果的に医療費の高騰につながりかねません。命につながる医療費は、優先して予算化すべきものです。

よって、75歳以上の高齢者の医療費窓口負担を、原則2割化しないことを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年 月 日

埼玉県新座市議会

内閣総理大臣 様

財務大臣 様

厚生労働大臣 様